

SOS!!

今、ごみが増えています

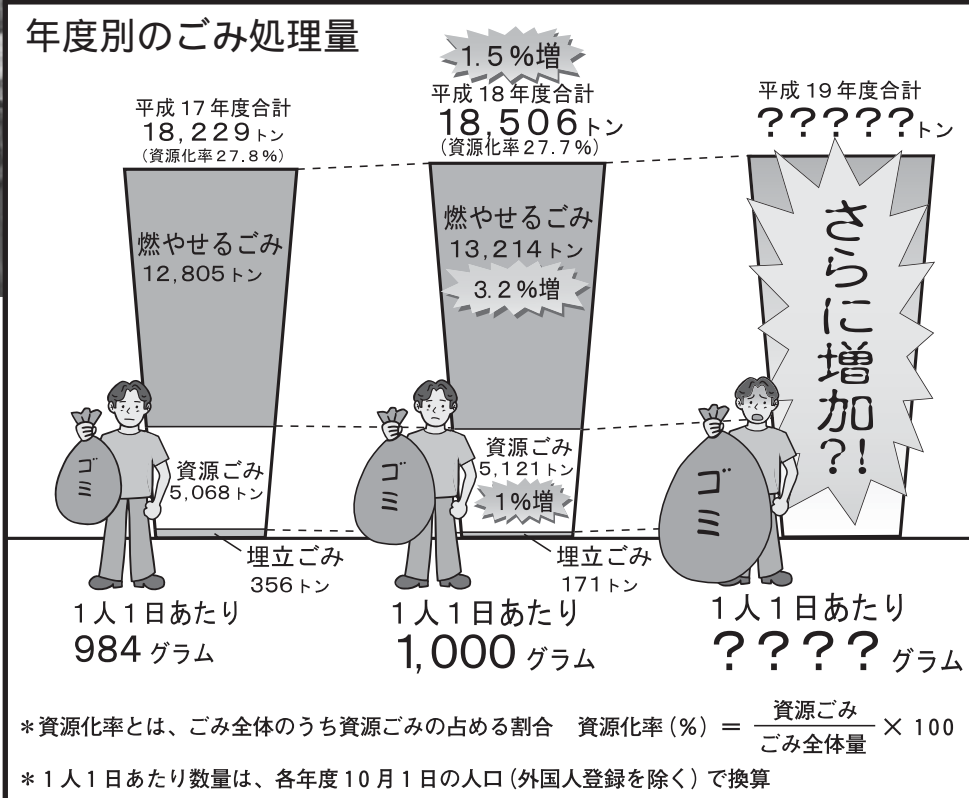
生ごみ減量大作戦

平成十八年度中に市のゴミ処理施設により処理されたごみの量がまとまりました。そこから見えてきた課題と対策を検証します。

問合せ クリーン課
電話 055 949 6805



『燃やせるごみ』収集日の長岡清掃センター。容量120トンのピット(ごみ集積施設)が溢れるほどになる。



も限界があります。施設の延命のためにも、燃やせるごみの発生を抑制しなくてはなりません。また、燃やせるごみの増加は、地球温暖化の原因である二酸化炭素の発生や、焼却に必要な重油等の経費増加も意味します。市では平成二十五年までに全体の量を五割削減することを目標に掲げています。燃やせるごみはごみ全体のうちおよそ七割と

市の年間ごみ処理量は?

平成十八年度中に、市のゴミ処理施設で処理されたごみの量は、一万八千五百六十一トン。資源化率は二七・七％でした。これは、県平均の資源化率一六・二％を上回る成果であり、市民の皆さんのごみ分別へのご理解とご協力によるものです。ありがとうございます。

しかしその一方で、ごみの全体的な量が増えているのも事実です。平成十七年度と比較してみると、全体で二百七十七トン(一・五％)増えています。これは一人一日あたり、千グラム(一キロ)ものごみを出している計算になります。燃やせるごみにいたっては、五十三トン(三・二％)も増えています。

このままでは、平成十九年度はさらにごみ処理量が増えることが予想されます。

燃やせるごみ処理が限界!

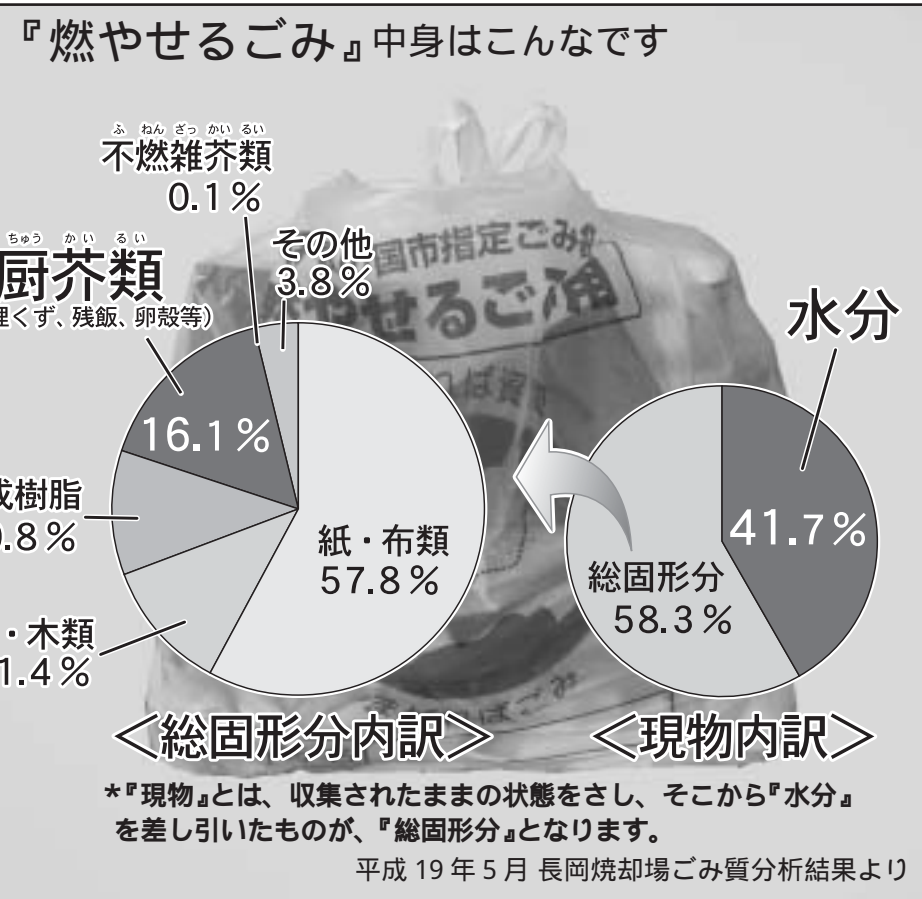
現在、市内の燃やせるごみは、長岡清掃センター、葦山焼却場に集められ、焼却されています。しかしその焼却施設も、建設から二十年以上が経過しているため、老朽化により処理能力が低下し、燃やせるごみの焼却に限界がきています。そして当然ながら、焼却した灰を埋める最終処分場の残余容量

現場の声

クリーン課 山本浩之さん(長岡清掃センター)

週6日、8時半～24時まで、6人の職員が交替でごみの焼却にあっています。容量120トンのピット(ごみ集積施設)はごみでいっぱいですが、1日に燃やせる量は31トン程度で、燃やしきれないのが現実です。

数年前に比べれば、市民の皆さんの意識も高く、袋にカン・ピンが混ざっているようなことはないのですが、リサイクル可能なはずのプラスチック類などはまだ多く混ざっています。そして、生ごみなどの水分が多く、1袋あたりの目方も重いです。ごみに多量の水分が含まれていると、ベルトコンベアも腐食するし、焼却のペースも落ちてしまいます。ごみの量と水分が減ってピットが半分以下になれば、私たちも安心して焼却できるのですが...



生ごみ減量大作戦!

燃やせるごみを減らすためには、資源ごみであるプラスチック類や紙箱類を取り除きしっかりと分別することはもちろんですが、最も大きなポイントは、**生ごみを減らす**ことです。

なぜ生ごみなのでしょう?それは、生ごみが、燃やせるごみの中でもっとも焼却しにくいからです。上の円グラフは、燃やせるごみの袋の一般的な中身を示しています。燃やせるごみ袋の中身で、一番多いのは紙・布類、次いで、二番目に多いのは、料理くずや残飯などの厨芥類(生ごみ)なのです。

そして、驚いたことに、**ごみ袋の中身の四・七％は水分が占めています**。つまり、ごみ焼却場で長い時間をかけて燃やしているものの四割以上は、**水**なのです。

これがいかに効率の悪いことかは語るまでもありません。この事態を打開するには、生ごみを減らす、もしくは生ごみに含まれる多量の水分を減らすことが重要です。

そこで、各家庭で生ごみの水切りをしつかり行った場合、ごみの量にどれだけ影響が出るか、調査してみました。